

第4回

作事組全国協議会・宮津大会

－ 総会・シンポジウム －

報告書



目 次

1. 開催プログラム	1
2. 開会式および総会	2
3. 分科会	3
4. 報告会	9
5. エクスカーション見学会	10
6. 作事組全国協議会加盟団体および個人名簿	14
7. 加盟各団体活動紹介	15
8. 参加者名簿	32
9. 総会議案	34
10. 作事組全国協議会会則	39
11. 会場案内図	41

1. 開催プログラム

10月11日（土）

10:00～12:00 エクスカーションⅠ 宮津市街地まち歩き（出発 宮津市役所）

12:00～12:50 参加者受付（場所：精輝楼ロビー）

12:00～12:45 作事組全国協議会役員会（会場：清輝楼会議室）

13:00～13:45 開会式及び総会（会場：清輝楼3階大広間）

13:45～18:30 『シンポジウム 分科会』

13:45～14:00 宮津町家の概要説明（会場：清輝楼3階大広間）

14:00～17:45 各分科会

第Ⅰ分科会… 町人・武家屋敷界限コース（会場：今林家分館）

第Ⅱ分科会… 北前船・漁師町界限コース（会場：旧三上家）

第Ⅲ分科会… 花街界限コース（会場：桜山長屋）

17:45～18:30 和火 2014 散策

18:30～20:30 大懇親会（会場：清輝楼3階大広間）



10月12日（日）

9:30 ～11:00 報告会・意見交換会・閉会式（会場：歴史の館3階大会議室）

9:30 ～ 10:00 伝統家屋の法制度をめぐる最新の状況報告

10:00 ～ 10:40 分科会報告及び意見交換会

10:40 ～ 11:00 閉会式

11:30～16:30 エクスカーションⅡ 海の京都見学会ツアー（場所：伊根・加悦）



2. 開会式および総会

■開会宣言

大会実行委員長 和田 直之

■開催地代表者挨拶

NOP 法人 天橋作事組理事長 大村 利和

■会長挨拶

全国作事組協議会会長 梶山 秀一郎

■来賓祝辞

宮津市長 井上 正嗣



■総会議案の審議（9. 総会議案参照）

第1号議案 2013・2014年度活動報告の承認について

第2号議案 2013・2014年度収支決算報告書の承認について

— 監査報告 —

第3号議案 2015・2016年度活動方針の決定について

第4号議案 2015・2016年度収支予算書の決定について

第5号議案 2015・2016年度役員の選任について



3. 分科会

■第Ⅰ分科会 町人・武家屋敷界限分科会～町屋活用と再生手法について考える～

10月11日（土）13：45～18：30

現地見学案内 NPO 法人 天橋作事組

意見交換会 座 長 齋藤行雄 氏（NPO 法人 臼杵伝統建築研究会）

事例報告 中島孝行 氏（NPO 法人 八女町並みデザイン研究会）

参加者 16名

宮津の町人・士族屋敷が展開した界限の町家の現状と、今も祈りが捧げられる教会聖堂として、日本で一番古いと思われるカトリック宮津教会天主堂など宮津の優良建築物をまち歩きにより見学、その後今林家にて、全国各地の現状及び事例と比較しながら、町家の活かし方や再生手法についての情報・意見交換を行った。

1. まち歩き

宮津市街地中部（島崎・柳縄手界限）及び旧城内（鶴賀）付近でコース設定した。

旧宮津城は、現在の市役所の東を流れる大手川を外堀に見立てた平城で、明治の廃城後、都市化が進み、城を偲ぶ地上遺構がほとんどみられない状況であった。しかしながら近年城壁の復元（護岸整備）や城内太鼓門の移築整備（小学校正門として活用）、周辺地区の小公園整備や市道美装化など、城を活かしたまちなみ修景事業が行われているので、その実施状況につき見学した。

また、かつて士族屋敷地であった柳縄手・大久保界限において、そのまち割りや大村邸長屋門など現存する建築遺構をについて確認するほか、カトリック宮津教会天主堂（M29 築）、日本聖公会聖アンデレ教会（S3 築）など、宮津を代表する近代教会建築などを見学した。

2. 意見交換会

まち歩き終了後、近年、建築当初（江戸後期）を想定した外観復元改修が行われ、現在は貸館施設として活用が図られている今林家住宅旧店舗（国登録文化財）を会場に意見交換会を実施。冒頭 NPO 八女の中島氏から「八女福島のまちづくり～建築文化と空き家の再生の現場から～」と題して、平成初年から現在に至る福岡県八女市の中心市街地福島地区における町家再生と活用に係る仕組み（デザイン研究会・町家再生機構・ふるさと塾・町家再生ファンド など）につき、詳細な報告をいただいた。



その後、NPO 臼杵の齋藤座長のコーディネートにより分科会参加の各団体の代表から、それぞれの地域の取組状況や課題等について報告いただく形で、意見交換と情報の共有を図った。

また、終了後、宮津に残る江戸末期の大規模町家建築である袋屋醤油店の内部見学、宮津城下を彩るライトアップイベント「和火」の見学を行った。



日本聖公会聖アンデレ教会（S3 築）



市役所敷地から対岸の復元城壁を望む



城壁内側の市道美装化



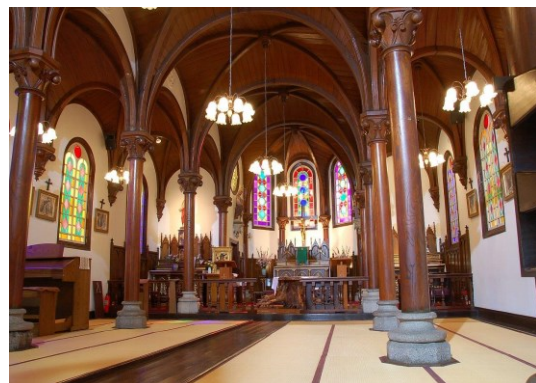
小学校正門として移築された太鼓門



柳縄手に残る土族屋敷遺構（大村邸長屋門）



柳縄手地区に特徴的にみられるブロック塀



カトリック宮津教会天主堂（M29 築）堂内



大久保地区に残る足軽屋敷

■第Ⅱ分科会 北前船・漁師町界限 ～町家再生技術の特徴について学ぶ～

10月11日（土） 13：45～18：30

講師：日向 進（京都工芸繊維大学名誉教授）

進行：末川 協（京町家作事組）



北前船の船持ちとして栄えた旧三上家住宅などが残る河原町から、旧城下町の西部に位置する漁師町を中心に、宮津の町家建築を見学。その後、意見交換会場である旧三上家住宅において、宮津町家の特徴や定義、町家を生かしたまちづくりについて話し合った。

1. 北前船・漁師町界限まち歩き

清輝楼から江戸時代に花街として賑わった新浜・魚屋地区を通り、茶屋の形式を残す町家や近代和風建築の集会所（公民館）などを見学。

その後、旧三上家住宅が建つ河原町から昭和初期の町家が軒を連ねる漁師町を見学し、白柏通り、尾藤家住宅（袋屋）を通り旧三上家住宅に戻った。市街地西部の町家の保存状況や特徴を地区ごとに確認することができた。



まち歩きの様子

2. 意見交換会

まち歩きを踏まえ、特に漁師町を中心に町家が面的に存在すること、河原町、白柏通、新浜地区においても、各地区の歴史を体現する町家が点在することが指摘された。また、京都、金沢など他地域との比較から宮津の格子、犬矢来、うだつなどについて、地域的な特徴が指摘された。



意見交換会の様子

宮津における取り組みの中で「宮津町家」の定義や位置付けが課題となっているが、京都市内でも建築学的に「京町家」の抽出は難しく、周辺の郊外ではなく歴史的な都市域に建つ町家を「京町家」と呼んでいるとのアドバイスがあった。宮津市街地については、江戸時代の絵図などから旧城下町の範囲を推定することができるので、旧城下町域に建つ町家を「宮

津町家」とする方向で、整理が可能であるという見通しを得ることができた。

また、今後の取り組みについて、行政と市民団体、地元住民との連携のあり方など八女市の事例などをもとにアドバイスがあった。



新浜通りの町家



河原町の町並みと旧三上家住宅



漁師町の町並み



新浜通りの町並み



白柏通りの町並みと黒田家住宅

■第Ⅲ分科会 花街界限分科会 ～各地の町家再生実践事例から考える～

10月11日（土）13：45～18：30

講師：宗田 好史氏

パネラー：梶原 純子氏（亀屋スタイル）・大滝 雄介氏（KOKIN）・羽田野まどか氏（宮津町家再生ネットワーク）



宮津市の新浜～魚屋～万町に残る伝統建築を見学。

江戸時代から栄えた花街に残る建築と、空き家が点在する現状を見学。清輝楼を出発し、花街である新浜、四軒町の町家改修事例「ぴんと館」に立寄り、商店が多く残る本町、商家がある万町を歩いたあと、意見交換会場である桜山長屋に到着。

1. 花街界限町歩き

宮津市の花街は、新浜・魚屋地区にあり宮津湾に沿って東西に広がる。木造2階建て（一部平屋及び3階建て有り）切妻平入で奥行の長い町家様式を成す建物群からなる。北前船が寄港した江戸・明治時代に花街として栄え、商店や茶屋であった建物も残る。新浜地区は古いもので明治時代、魚屋地区の半数以上は昭和の戦後に建てられたものである。



2. 意見交換会

空き家を利活用する際に課題となる「建築技術・法律・マネジメント(経営)」をテーマに、講師・パネラーが各自で取り組むプロジェクトの事例を発表。

宗田氏より、空家問題・空家条例・活用事例・高齢化による空き家増加の現状と・今後の課題について。以前と現在では「家主がどう改修するか」から「高齢化した家主にどう手放してもらうか」に課題が移行している事を発表。



梶原氏より、自宅兼コミュニティスペースである「亀屋スタイル」について。夫の実家である100年を超える建物を伝統工法で改修。地産品・作品を扱う「おくど市」を開催し、情報・交流拠点として定着しつつある事、今後は地域の活性化にどう繋げるかが課題である事を発表。

大滝氏より、代表を務めるKOKINの活動と、築130年の町家を改修したレンタルスペース「宰嘉庵」について。改修の過程で土壁塗りや三和土のワークショップを行い、地域の協力者と場所を作っていた事、完成後に福知山で町家改修を行うきっかけになり、活用する動きが他の地域へ広がっている事を発表。

羽田野氏より、代表を務める宮津町家再生ネットワークの活動について。「オール丹後ですべてのデザインができるようになる」を目標にまちづくりに取り組む中で、丹後各地の人

や団体の繋がりが広がっている事、桜山長屋を改修したコミュニティカフェ「nagaya café 桜山」を運営する事で、丹後のアンテナショップとして地域の人・物・情報が集まる拠点になっている事を発表。

意見交換会では、宮津の街中には古い建物が残っているが、現存する建物から「何を残すべきか」「どう再生・活用するか」という基準が見えづらいと指摘があった。空家活用の先進地として京都市内の例が挙がり、京町家と呼ばれる建物には多くの様式があるような印象を受けるが2～3種類に大別する事ができる。今後、空家の利活用を進めるにあたり「宮津町家」を定義してはどうかと提案があった。



新浜地区(明治時代)



新浜地区(昭和戦前)



新浜地区(昭和戦前)



魚屋地区(昭和戦前)



魚屋地区(昭和戦前)



魚屋地区(昭和戦後)

4. 報告会

■伝統家屋の法制度をめぐる最新の状況報告

10月12日（日）9：30～10：00

報告者：末川 協氏（京町家作事組）



京町家作事組の末川協氏より、京都市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例の制定と運用の状況について報告があった。

報告では、条例の制定に至るまでの京町家作事組と京都市との協議等の経緯、深草の町家などの実施例から得られる条例の課題、そして最新の状況について説明が行われた。

■分科会報告・意見交換会

10月12日（日）10：00～10：40

報告者：第Ⅰ分科会（石田 直之氏）・第Ⅱ分科会（森口 英一氏）・第Ⅲ分科会（宗田 好史氏）

進行：井澤 弘隆氏（作全協事務局）

まとめ：宗田 好史氏

3つの分科会からプレゼンテーション（講演）の概要と質疑応答について報告してもらった。町家の利活用という課題に対し、参加者は法律・技術・マネジメントそれぞれの観点から各地の事例を共有した。また、都市部では生活圏の観光地化、地方都市では少子高齢化といったように、建物に付随して解決すべき異なる課題を抱えている事を認識する事ができた。

その後、参加者も交えて意見交換を行った。今後町家に限らず空き家が増加する事、それに対する制度設計が必要になる事は必至であり「町家を活用するために必要な技術」について各地域と更に交流を密にして、広い視野で事例を共有していく事の必要性を感じた。



5. エクスカーション見学会

■エクスカーションⅠ 宮津市街地まち歩き

10月11日(土) 10:00~11:40

案 内 NPO 法人 天橋作事組

講 師 日向 進氏

コース 宮津市街地(中部地区)

参加者 約40名(一般参加含)



安土桃山時代の細川氏入国以来、近代に至るまで丹後地方の中心都市として殷賑を極めた宮津城下町(現市街地中部地区)をめぐるまち歩き企画を実施、今に残る城下時代の町割りや往時を偲ぶ優良建造物・史跡等につき適宜案内・解説を行った。

主な見学先

1. 宮津市役所

昭和37年(1962)竣工。設計は丹下健三門下で、地元峰山出身の沖種郎である。三棟の建物のコの字型の組合せで構成され、北街路側からは新たな都市門として高層建物の威容を、西街路手側は、城下町の街路性を確保する平屋棟を、また、東側河川に対しては開放的な空間構成をみせ、設計者の立地状況に応じた都市デザイン的配慮をみてとることができる。



2. カトリック宮津教会天主堂

フランス人宣教師ルイ・ルラブ神父により明治29年(1896)に建立された天主堂。フランス風の意匠をとりながら堂内は畳敷きという和洋折衷の建築で、今に残るフランス直輸入の色あざやかなステンド・グラス、けやきの柱、ドーム式の天井など、明治前期の面影を留める貴重な教会建築である。



3. 和貴宮神社

藩政時代の職人町に面して立つ宮津城下中部の産土神である。現本殿は一間社流造で文化4年(1807)の再建。また本殿隣にある大岩は「水越岩」と呼ばれ、かつてこのあたりが海岸線であったという伝承を残している。

境内正面の玉垣には、町の有力者に混じり、越前、越中、越後、近江、大坂、播州、備中、備後など、寄進者である各地の商人達の名が刻まれ、北前船寄港地「宮津」



の名残を今に伝える。

4. 宮本会館

昭和 4 年に地区の会議場として竣工。現在は公民館的機能を果たしている。木造 2 階建て、外壁は鎧下見を張り、屋根は切妻で、妻面（正面入口側）を楕形にくぼめた独特の意匠を呈しており、宮津に残る昭和初期のモダンな建築の 1 つである。



5. 今林家住宅(国登録文化財)

今林家は江戸時代より生糸・糸問屋を営む宮津を代表する商家の一つ。万町通りに面して現存する建物は、本宅（東側）と旧店舗（西側）に分けられ、それぞれ主屋と土蔵から構成される。うち本宅主屋は火事による再建で明治 25 年(1892)の竣工。旧店舗については、江戸期の建築で、近年当初の姿に戻すことを念頭に改修が行われた。



6. 茶六本館（国登録文化財）

創立の時期享保年間と伝える宮津の老舗旅館。当主は代々「茶谷六治」を名乗る。現在の建物は木造 3 階建て、大正棟（南側・大正期建築）と昭和棟（北側・昭和 10 年増築）により構成される。当旅館は昭和初期まで運送業を兼ねた商人旅館であったが、広間や大広間を改修により設けて観光旅館としての性格を強め現在に至る。



7. その他

近年の市街地の空家建築の改修・活用事例として、「桜山長屋」・「新浜四軒町ぴんと館」の現地見学及び事業経緯等の説明を行った。



桜山長屋



新浜四軒町ぴんと館

■エクスカーションⅡ 海の京都見学会ツアー

10月12日（日）11：30～16：30

講師 日向 進氏



宮津市に隣接する2つの重要伝統的建造物群保存地区を見学。
31年ぶりに復活した宮津－伊根航路。宮津栈橋より『KAMOME6』に乗船し、天橋立を左に望みながら、約1時間かけ舟屋を海から見学したあと伊根港に到着。

1. 伊根重要伝統的建造物群保存地区

舟屋は伊根湾海岸線に沿い、木造2階建て（一部平屋及び3階建て有り）妻入りの建物群からなる。1階は船着き場、2階は倉庫・作業場・住居等となる。古くは江戸時代中期頃に建てられ、2005年7月に重要伝統的建造物群保存地区に指定され、現在230棟以上の舟屋が登録されている。

舟屋群ばかりに目が行きがちではあるが、他に特徴的なものが、海から山へ向けて舟屋－主屋－寺院等3層3段に配列され、各層の間に通る道路及び歩道と全てをつなぐ露地からなるまちなみ構成である。



伊根舟屋を後に、バスにて天橋立 府中を經由し加悦ちりめん街道に到着。

2. 加悦重要伝統的建造物群保存地区

この地は丹後で織られたちりめんを京都・大阪へ運ぶ街道であったことから、ちりめん街道と呼ばれる。2005年12月に重要伝統的建造物群保存地区に指定され、江戸9棟、明治28棟、大正25棟、昭和初期41棟が登録されている。



旧加悦町役場：昭和3年丹後大震災で被災した為、大林組今林彦太郎設計により建てられた庁舎で、京都府指定有形文化財に指定される。

旧尾藤家住宅：江戸時代の建物・旧加悦町役場と同じ設計者による洋館等、複数の年代建物からなり、京都府指定有形文化財に指定される。

西山工場：織物工場3棟がかつては渡り廊下で繋がっていた。和小屋組伝統工法による大架建造物。





旧加悦町役場



杉本家住宅



旧河嶋酒造酒蔵



旧産業銀行



旧伊藤医院診療所



西山工場

6. 作事組全国協議会加盟団体および個人名簿

作事組全国協議会・加盟の団体及び個人名簿				2014.8.31現在
	都道府県	市町村	団体名及び個人名	所在地
1	北海道	函館市	はこだて街なかプロジェクト	〒041-0851函館市本通2-21-26 株)建築企画山内事務所内
2	岩手県	盛岡市	盛岡まち並み塾調査活用委員会	〒020-0015盛岡市本町通2-4-5
3	東京都	東京都	一般社団法人 ワークショップ「き」組	〒165-0023東京都中野区江原町1-46-12-102 松井郁夫建築設計事務所内
4	東京都	東京都	山本玲子(所属:全国町並み保存連盟)	〒105-0003東京都港区西新橋2-8-14 宝栄西新橋ビル401号
5	石川県	金沢市	有限責任事業組合 金澤町家	〒920-0831金沢市東山2-1-7
6	愛知県	犬山市	NPO法人 犬山城下町を守る会	〒484-0083愛知県犬山市東古券399-3
7	三重県	伊勢市	NPO法人 伊勢河崎まちづくり衆	〒516-0009三重県伊勢市河崎2-25-32 伊勢河崎商人館
8	京都府	京都市	一般社団法人 京町家作事組	〒604-8241京都市中京区三条通新町西入ル釜座町32
9	京都府	宮津市	天橋作事組	〒626-0033宮津市宮村1123
10	京都府	京都府	上田東(所属:NPO法人ちりめん街道未来塾)	〒629-2403京都府与謝郡加悦町加悦1094ウエダ商店内
11	奈良県	奈良市	公益社団法人 奈良まちづくりセンター	〒630-8333奈良市中新屋町2-1 奈良町物語館
12	奈良県	橿原市	NPO法人今井まちなみ再生ネットワーク	〒634-0812橿原市今井町3-8-5 夢咲き長屋内
13	奈良県	奈良市	なら・町家研究会	〒630-8306奈良市紀寺新屋敷町687-2 藤岡建築研究所内
14	奈良県	宇陀市	宮奥淳司(所属:宇陀まちなみ研究会)	〒633-2155奈良県宇陀市大宇陀区黒木1028
15	兵庫県	姫路市	姫路・町家再生塾	〒670-0025姫路市材木町9
16	兵庫県	龍野市	NPO龍野町家再生活用プロジェクト	〒671-1664たつの市揖保川町金剛山505 岸野裕兄様方
17	岡山県	倉敷市	NPO法人 倉敷町家トラスト	〒710-0053倉敷市東町2-2
18	広島県	福山市	NPO法人 鞆まちづくり工房	〒720-0201福山市 鞆町鞆5
19	鳥取県	倉吉市	匠のつどい	〒682-8611鳥取県倉吉市葵町722倉吉市教育委員会文化財課内
20	山口県	萩市	萩つくる会	〒758-0031萩市川島338番地 堀設計事務所内
21	福岡県	八女市	NPO法人八女町並みデザイン研究会	〒834-0031八女市本町315 中島孝之アトリエ内
22	福岡県	福岡市	NPO法人 文化財匠塾	〒812-0023福岡市博多区奈良町11-13
23	福岡県	久留米市	住まいば考えよっ隊	〒830-0047久留米市津福本町1804-5 山本茂明様方
24	大分県	臼杵市	NPO法人 臼杵伝統建築研究会	〒875-0023大分県臼杵市江無田1479-3(株)足立林業内
25	長崎県	平戸市	米村伍則(所属:あづち大島たからもの会)	〒859-5801平戸市 大島村神浦52

7.加盟団体活動紹介

組織名称	盛岡まち並み塾調査活用委員会			
組織の所在地	〒 020－0015 盛岡市本町通 2-4-5			
	TEL 019－624－2466	FAX 019－624－2146	MAIL doujin@ictnet.ne.jp	HP
組織の構成	設計、工務店			
				員数 15 人
活動内容	<ul style="list-style-type: none">・ 相談、調査、診断・ 町家活用、管理・ 歴史的建築物の改修普及活動・			
活動の目標 と試み	・ 町家及び歴史的建築物と暮らしのの継承			
	・ 技の継承			
	・ 次世代職人を育てる			
	・ 町家県内ネットワークづくり			
対象地域	盛岡市内（原則）及び県内			
対象建物	伝統木造軸組構法による戦前木造建築			対象件数 約 1000 軒
建物の特徴	外観	屋根	主屋根：元は桒葺、現在はカラー鉄板、瓦葺 下屋：同上	
		壁	真壁漆喰、下屋両側、腰縦板張（漆喰等）	
		開口部	格子戸、大戸、蔀戸、障子（ガラス戸）	
		その他	軒裏露し(主屋根)、板野地(
	内観	ろーじ（京通り庭）みせー板間、大引き天井、根太天井 じょうい（中の間）一畳間、吹抜け、神棚、屋根現）、だいどこー板間、吹抜、座敷一畳間、2 階を載せない。 2 階表座敷（元は板敷）裏 2 階は大正以降		
	構造	玉石に土台敷、通し柱、桁梁小屋組構造、貫構造、		
	その他	平入、隣家近接		
	保全・ 再生方針	<ul style="list-style-type: none">・ 基本的に建ったときの状態に戻す。・ 構造、屋根、外壁などの建物の保全性を担保する部分の改修を優先する・ その上で断熱壁、複層ガラス戸、気密、暖房システムを付加・ 改修を通して、施主、職人と町家の保全・再生についての考え方を共有する		
協力する団体	盛岡まち並み塾、盛岡まち並み研究会、伝統建築研究会、まちづくり住民組織、市民			
課 題	<ul style="list-style-type: none">・ 現行法制との整合・ 適切な改修技術、職人の確保・ 適材の流通			
活動資金	活用協力金、出資者。			
その他	町家改修等サロン運営。改修実績 全部 2 棟、部分改修 2 棟、工事中 1 棟、外観のみ 3 棟 相談件数約 20 件			

組織名称	一般社団法人　ワークショップ「き」組			
組織の所在地	〒　165-0023　東京都中野区江原町 1-46-12-102			
	TEL 03.3951.0703	FAX 03.5996.1370	MAIL　info@kigumi.jp	Hp　kigumi.jp
組織の構成	全国の山と職人と設計者の職能グループ。			
	住まい手候補の登録も行なっている。			員数 14 会員 40 登録
活動内容	<ul style="list-style-type: none">・　山の木を植林できる費用で購入・　職人には腕を振るってもらえる手間を確保・　住まい手には山の保全と伝統の継承を理解して家づくりをしていただく・　設計者は山と職人と住まい手をつなぐ協働の進行役			
活動の目標 と試み	・　伝統的な木組の家を一軒でも多くつくること		会員の広告宣伝、日本の家づくりを命題にしている	
	・　山に植林費用を返すこと		山の林業家との直接契約	
	・　職人技術の伝承のための手間を確保すること		積算の明確化	
	・　設計者の木造教育		木組ゼミの実施	
対象地域	全国			
対象建物	新築が主、再生仕事もあり			対象件数　約 20 軒
建物の特徴	外観	屋根	主屋根：ガリバリウム鋼板・瓦屋根 下屋　：ガリバリウム鋼板	
		壁	藁入りラスモルタル	
		開口部	アルミサッシ	
		その他		
	内観	柱・梁全て表し。 漆喰塗り		
	構造	金物に頼らない伝統的な木組。 貫・足固め採用。耐力壁は構造用合板。		
	その他			
	保全・ 再生方針	<ul style="list-style-type: none">・ 新築が主であるが、伝統的な木組みで架構をつくっている。・ 再生仕事の場合はもちろん伝統の木組みで改修。・ 日本の本来の構法や素材を大切にしている。・		
協力する団体	職人がつくる木の家ネット			
課　題	<ul style="list-style-type: none">・ デフレの影響で価格の見直しを迫られている。・ プレカットを使わない手仕事の維持が課題。・			
活動資金	会費			
その他				

■NPO 法人全国町並み保存連盟

所在地：〒105-0003 東京都港区西新橋 2-8-14

宝栄西新橋ビル 4 階

☎ 03-3595-0731

E-mail: matinami@pop02.odn.ne.jp

URL: <http://machi-nami.org/>

理事会：理事 29 名（代表者・福川裕一）

会員数：団体会員 67 団体 個人会員 194 名

年会費：団体会員 30,000 円、個人会員 2,000 円

設立年月日：平成 49（1974）年 4 月 17 日

認証年月日：平成 15（2003）年 6 月 2 日

●地区の概要及び団体発足の経緯

全国町並み保存連盟は、「今井町を保存する会」（奈良県橿原市）、「妻籠を愛する会」（長野県南木曽町）、「有松まちづくりの会」（愛知県名古屋市）という 3 つの住民組織によって結成され、今年、40 周年を迎えました。結成当時は、高度成長期にあり、全国各地で歴史的集落・町並みの破壊が大きな問題となっていて、当連盟の結成が文化財保護法改正による伝統的建造物群保存地区制度の創設を後押ししました。「町並みはみんなのもの」を合言葉に、「郷土の町並み保存と、より良い生活環境づくり」をめざし、研究者、国や地方自治体、各種団体と連携しながら、歴史まちづくりを推進する活動に取り組んでいます。



図 1 今井町での 40 周年記念行事



図 2 見学会では修理現場の説明もお願いしている

●主な活動内容

○全国町並みゼミの開催

昭和 53（1978）年より、年に 1 回、加盟団体が中心となった実行委員会との共催で、全国町並みゼミを開催しています。住民の勉強会として研究者・行政などに参加を呼びかけ、同じテーブルについて集落・町並みの保存について議論ができる貴重な場となっています。伝統構法などのテーマは人気が高く、ほぼ毎年、分科会で取り上げられています。近年、参加者も多くなりましたが、全体会とは別に分科会や地方ブロックなどの小規模の会議を設定し、参加者全員が発言できるよう工夫しています。今年は、11 月 7 日（金）～9 日（日）に佐賀県鹿島市・嬉野市で開催します。ぜひ、ご参加ください。

○ブロック活動

会員の横の連携を強め、情報交換を活発にするために、全国を 7 つのブロックに分け、それぞれの地区の理事が世話役となり活動しています。町並みゼミでは各ブロック会議を開催します。九州ブロックから始まったブロック毎のゼミは、今年度は北陸甲信越（妻籠）、関東（埼玉県行田市）で、それぞれのブロックの方針のもとに開催します。

○広報活動

現在、季刊の機関紙『町並みくみにくみ』を発行していますが、広く当連盟の活動を知っていただき、会員を増やしていくために、ホームページの更新、Facebook での発信をしています。

○40 周年記念行事

今年度は、結成時の 3 団体の今井、妻籠、有松の相互交流事業と北信越ブロック妻籠大会、全国町並みゼミで特別プログラムを用意しています。来年度は会員が参加できる見学会などを企画する予定で、そのため団体加盟の少ない東北見学会（増田、角館、盛岡、金ヶ崎、村田）を実施し、課題などを抽出しています。また、設立当初の資料および聞き取り調査を行って、資料をまとめる予定です。

○認定NPO法人への取組み

NPO 法人認証以来続けてきた理事による法人運営が安定したことから、団体としての信頼性をより高めるために認定NPO法人化に取り組んでいます。定款の見直しやNPO会計基準への移行、法務局や監督官庁への報告の期限厳守など事務体制を見直しています。

●これからの活動の課題等

会費未納団体の整理や認定NPO法人化への取組みで寄付をお願いしていることから個人会費の値下げもあり、財政については依然として改善はされていません。一方で、広報などで個人会員が漸増しており、この動きを進めるためにも、団体としての透明性を高める努力と共に、既存事業の見直しと新規事業の可能性を探りながら、各地の集落・町並み保存団体の支援を続けていき、50 周年を迎えられるよう、努力をしています。

LLP ■有限責任事業組合金澤町家

所在地：〒920-0831 金沢市東山 2-1-7

☎076-253-3517（事務担当：水野）

E-mail：kanazawa-machiya@nifty.com

URL：http://kanazawa-machiya.net/

組合員 10 名（代表者・武藤清秀）

設立年月：平成 20（2008）年 11 月

●地区の概要及び団体発足の経緯

石川県の県庁所在地である金沢は、かつて前田藩の城下町であった。幸い戦災や震災の被害に遭っていないことから、旧市内には城下町時代の道路形態と地割が多く残されている。藩政期の金沢は、城郭および藩関係の施設を中心に、城下町の大部分を武家屋敷が占め、その間を縫うように帯状に町家が分布していた。面積的には、武家地が約 6 割、町人地が 3 割弱、寺社が約 1 割、戸数では、町人が城下町全体の約 7 割を占めていたため、非常に高い密度で居住していたことになる。また、町人居住地は、街道、往還など城下町を形成する主要な道路に沿うように配置されていた。

旧市内における歴史的建築物は、H.11 年に約 10,900 棟であったが、H.16 年には約 9,500 棟、さらに H.21 年には約 8,300 棟まで減少し、年間約 240 棟が消失している。歴史的建築物の取り壊しや空き家の増加など、まちなかの空洞化が進むと同時に、現存する歴史的建築物の約 3 割について伝統的外観要素が見られない状況となっている。

平成 20 年と 24 年に金澤町家研究会が金沢市より委託を受け行った、まちなか区域にある町家の実態調査によれば、4 年間での減少数は年間約 100 棟であり、減少傾向にやや歯止めはかかっているが、歴史的建築物は確実に減少している。



図 1 壊されていく金澤町家

このような状況を踏まえ、歴史的建築全体について継承・活用していく取り組みを組織的に行うため、これまで地元において金沢の歴史的建築に関わってきた大学研究室、建築技術者、コンサルタント及び一般市民などが集い、H.17 年 6 月に「金澤町家継承・活用研究会」が発足した。H.19 年、金澤町家研究会と名称を変更し、H.20 年 2 月、NPO 法人の認証を受けた。その後、専ら建築物の修復の実務に関わる「有限責任事業組合（LLP）金澤町家」が、同年 11 月に設立された。

●主な活動内容

ONPO 金澤町家研究会

URL：http://kanazawa-machiya.net

会員約 70 名

年会費 正会員 5,000 円 賛助会員一口 5,000 円

学生会員 3,000 円

設立年月：平成 17（2005）年 6 月

- ・ 金沢の旧市内に残る町家の実態調査
- ・ 町家の活用実験、町家の見学会
- ・ 講演会、シンポジウムの開催
- ・ 金澤町家を巡り、その魅力を体感する催し「町家巡遊」の開催
- ・ ニュースレター「町家だより」の発行
- ・ ホームページの運用による広報活動



図 2 LLP 金澤町家事務局のある町家

OLLP 金澤町家

「LLP 金澤町家」は、金澤町家研究会を母体にもち、町家改修における実際的な業務を行うための有限責任事業組合として設立された。工事や設計を行うのは、金沢市が運営する（公社）金沢職人大学校・修復専攻科を修了して「歴史的建造物修復士」となった第一線で活躍する経験豊富な職人や設計士。確かな伝統技術によって、快適で豊かな町家住まいを、住まい手とともに創り上げていくことを目的にしている。



図 3 修復した町家の見学会

●これからの活動の課題等

- ・ できるだけ多くの町家が継承・活用されるように、活動実績を増やし、町家の所有者あるいはこれから町家に住もうという人に、組合の存在と活動を広く認識してもらうこと。
- ・ 伝統構法に熟達した職人が、その技術を発揮できる場を提供すること。また、仕事を通じて伝統構法を継承するために、興味を持つ多くの職人に参加してもらうこと。

■一般社団法人 京町家作事組

所在地：〒604-8241 京都市中京区三条通新町西入ル
釜座町 32 番地

☎ 075-252-0392

E-mail : sakuji@kyomachiya.net

URL : http:// kyomachiya.net

理事会：理事 18 名（代表者・木下 龍一）

会員数：正会員 35（内訳：設計、工務店、左官、瓦、
畳、建具、板金、庭園、家具、電気、給排水、ガス、
その他）

年会費：20,000 円

設立年月日：平成 11（西暦 1999）年 4 月

●地区の概要及び団体発足の経緯

1998年、京都市都市計画局と京都市景観・まちづくり
センターの「京町家まちづくり調査」で都心4区2,877ha
（上京・中京・下京・東山）の悉皆建物調査、住民アン
ケート調査、訪問ヒアリング調査が行われ、約2万8千軒
の町家があることがわかった。この数は世界最大の歴史
都市といわれるローマ市都心の3,000haに匹敵する。し
かしその後2003年の調査では町家の数は2万5千軒に減
少したと推定される。

すでに1992年に京都市都市計画局や建築家、町家住民
が京町家の減少に歯止めをかけようと京町家再生研究
会を発足させ町家の保全・再生の調査、研究及び実践活
動を推進していた。そのなかで町家改修の実践に特化し
た組織が望まれ、1998年11月、京都市自治100周年事業
「京のすまいと暮らし再発見」の「京町家を支える職人
さん達の技」展に参加したメンバーを中心に準備会合を
重ね、1999年4月に京町家作事組が発足した。

作事組は10年間の活動目標を以下4つに定めた。即ち
「町家を守り、つくる」、「技を再生し習得する」、「次代
を担う職人を育てる」、「保全・再生を普及させる」こと。
再生研をはじめ、町家の暮らしを見つめなおす京町家
友の会、町家の売買貸借にかかわる流通再生を目指す
京町家情報センターと連携して上記4つの目標を軸に
活動している。



図1 2010年11月にオープンした新事務局

●主な活動内容

(1)町家を守りつくる

優れた技術、知識、アイデアを有する専門家の連携
を旨とし、自立した運営を可能とする35社からなる強
い組織づくりを行ってきた（表-1）。

作事組の活動実績は15年を経た時点で、相談件数
534件、改修物件200軒である。（表-2）

（2014/08/31 現在）

職種	事業所数
工務店	8社
設計事務所	6社
左官	2社
屋根（瓦）	3社
板金	2社
畳	1社
建具	1社
経司（襖）	1社
洗、（塗装）	2社
家具（漆）	1社
造園	1社
給排水	2社
材木（銘木）	1社
ガス	1社
電気（空調、換気）	2社
出版業、他	1社
計	35社
監事	1名
計	1名

表-1 会員分類

京町家作事組 工事相談実績		
年度	工事件数	相談件数
H11	8	90
H12	5	20
H13	10	40
H14	10	42
H15	14	31
H16	14	29
H17	14	27
H18	20	36
H19	18	28
H20	18	30
H21	21	33
H22	9	20
H23	17	39
H24	11	35
H25	11	34
H26	5	27
計	205	561

表-2 工事・相談件数

(2)技を再生し習得する

誰もが短期間に町家改修の基本的な作法を学べるよ
うテキスト『町家再生の技と知恵』を作成。



(3)次代を担う職人を育てる

棟梁塾を契機とした職方のタテ、ヨコの関係構築。
相互学習と研修の場を現場での協働につなげる。

(4)保全・再生を普及する

京町家通信、作事組たよりの発行、ホームページ運
営、一般向けの企画講座、ワークショップ

●これからの活動の課題等

- ・法制度における伝統構法の位置づけを正し、町家の
暮らしを適法に生かす道筋をつける。
- ・各職方の作法を短期間に学ぶためのテキスト作成。

■特定非営利活動法人 天橋作事組

所在地：〒626-0033 京都府宮津市宇宮村 1123

☎050-3649-7655（株式会社大村工務店内）

E-mail：info@tenkyo-sakuji.jp

URL：http://www.tenkyo-sakuji.jp

理事会：理事 6 名（会長・大村利和）

会員数：正会員 26 名（内訳：技術者会員 20、一般会員 6）

年会費：個人会員 3,000 円、団体会員 5,000 円

設立年月日：平成 22（2010）年 2 月（2012.5 月法人化）

●地区の概要及び団体発足の経緯

京都府北部に位置する丹後地域には様々な歴史的遺産と文化が数多く残されています。天の橋立をはじめ、数多くの自然環境はもとより、構造物に関しても古くは縄文時代から弥生時代にかけての数千基にも登る数の古墳群や戦国時代から江戸時代にかけて城下町として構築された寺社建築物群、江戸末期から近代にかけて反映した豪商の建築物など歴史的価値を持つ建築物は数多く存在します。なかでも、宮津市内にある豪商三上家住宅やカトリック教会、今林家、茶六本館や清輝楼など数多くの価値ある伝統木造建築物が存在しています。



図 1 三上家外観(左)と宮津カトリック教会内観(右)

しかしながら、一方では伝統建築技術を担う大工や左官職人も高齢化し、同伝統建築工法を活かせる仕事もなくなり、技術の伝承そのものが非常に困難になっています。天橋作事組は、『自分達の地域の伝統的な建築財産は自分達の手と技術と智恵で保全する』ということ、そして『先人達が残した地域の技と智恵を研究し、次世代の地域の担い手に伝承する』という主旨のもと、“宮津地域の資産である伝統的なまち並みを守り、木造伝統建築技術の知識と智恵を学び、技能者と人を残す”ことにより宮津のまち並み形成の促進と、伝統的で魅力あるまちづくりの推進に寄与することを目的に、地域に根ざす木造建築技術者や研究者、学識経験者や市民賛同者等で組織する団体です。

●主な活動内容

○高校生とのまちなみ（現況建築物）調査

平成 25 年度は宮津市の未来の建築を担う宮津高

校建築科の生徒たちと一緒に、かつて宮津のまちが反映した時代の中心地であった魚屋東地区・島崎地区のまちなみを調査し、データ化するとともに高校生達の思いや将来に対する意見も踏まえた報告書を作成し、桜山長屋の再生活用についての設計出前授業も行いました。

○桜山長屋の再生活用ワークショップ

平成 24 年度に高校生を対象に行った桜山長屋の再生活用をテーマにした設計出前授業を具現化する取組みとして、平成 25 年度はワークショップ形式による再生を行いました。



図 2 壁塗りワークショップ

○その他の主な活動内容（平成 25 年度）

- 宮津与謝地域における耐震フェアにて保全修復に関する市民相談会と木組模型の展示を実施しました。
- 市民を対象とした地域の文化と歴史をテーマとした講演会を開催しました。
- 宮津市域の建築物分布調査を行い、文化的景観を構成する町家を報告書にまとめました。
- 有名近代建築でもある宮津市役所市庁舎の調査及び建築的価値についての講演会を行いました。

●これからの活動の課題等

- 伝統建築物の分布調査により重要構成要素である建築物の詳細調査を実施しデータを作成すること。
- 宮津市のまちなみ景観のあるべき将来像を提言し、市民と一体となったまちなみ形成の活動を推進すること。
- 宮津市市街地はもとより、活動範囲を里山地域や隣接市町村まで拡大し、京都府北部（丹後）地域全体の伝統的建築物の保全に寄与すること。

特定非営利活動法人

ちりめん街道未来塾

所在地：〒629-2403

京都府与謝郡与謝野町字加悦1094番地

☎ 0772-42-2542

FAX 0772-42-4233

E-mail: chirimen-azuma@kvt.net.jp

理事（役員）会：毎月1回

理事（役員）7名（代表者・上田東）

会員数：正会員13名（内訳：織物 建築設計 税理士 行政書士 町議 公務員 その他）

年会費：正会員6,000円、賛助会員6,000円

設立年月日：平成25年7月（法人登記）

●地区の概要及び団体発足の経緯

京都府北部、丹後半島の付け根部分に位置する与謝野町加悦地区（通称：ちりめん街道）は、江戸初期に区画された地割りを残し、江戸後期から栄えた丹後ちりめん産業により富を得て建築された建物が軒を連ねた製織町です。

切妻平入りを基本とした建物群は、ちりめん生糸産業に関わる商家、工場、銀行、郵便局など、江戸後期～昭和初期の建築物が残っており、中には洋風建築が混在するなど、各時代のさまざまな様式の建物が融合しているのが特徴の一つです。



図1 加悦の町並み（通称・ちりめん街道）

昭和62年に京都工芸繊維大学日向進教授が、当時の加悦町からの委託事業として実施された「ちりめん街道建造物現状調査」によって、街道沿いに江戸期～昭和初期にかけての建物群が多く残っていることが分かり、これをきっかけに行政を中心とした保存に向けた取組が進められます。

平成10年には、京都府立大学宗田好史教授による地元住民を対象とした意識調査が実施され、保存に対する意識が大変低いことが分かりました。

同じころ、商工会・商工業者が中心となり地域商店活性化・集客を目的に「ちりめん街道を考える会」が結成され先進地視察、イベント開催などを行いました。

並行して、行政による地元住民対象とした講演会や勉強会を重ねる中、歴史的・文化的にも非常に価値が高いことを知り、この町並みを永く保存して行こうと言う思いが強くなり、平成12年に「考える会」を発展的に解消し、保存を主眼とした地元住民中心の任意保存団体「ちりめん街道を守り育てる会」が発足しました。

その後、ちりめん街道を守り育てる会を中心として、国の重要伝統的建造物群保存地区の選定に向けた取組が進められ、平成17年12月に、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。翌年から文化庁の補助事業による修理・修景事業が進められています。

また、行政から委託を受けた立命館大学により、防災計画策定事業が進められており、平成23年度には加悦伝建地区の防災計画書が作成され、平成24年度から防災施設の整備事業が行われています。

伝建選定後9年経過した現在、住民の高齢化が進み、空き家また空き家になると予想される建物が増え、文化財としての地域維持が困難となっているのが現状です。

このような中、歴史的にも景観の上でも極めて重要な位置にある建物所有者からは「高齢であるが故、自分で修理保存・維持管理はとても無理。解体撤去の道を選ばざるを得ない」。

こうした物件が街道筋に相当数あり、このまま放置せず住民として取り組むため、任意団体とは別な組織の必要性を考慮し、「特定非営利活動法人ちりめん街道未来塾」を設立しました。

会員は「守り育てる会」にも在籍し、「会」と連携しながら活動を行っています。

●主な活動内容（H26年3月末）

地域コミュニティ事業

街道懇話会開催

「まちや紳士録」上映会開催

海の京都 与謝野町実践者会議参画

宮津まちなみシンポジウム参加

歴史文化地場産業振興事業

小学校総合学習出前授業

（丹後ちりめん・ちりめん街道の歴史）

建物保存維持管理事業

旧丹後産業銀行跡の活用方法の研究

■なら・町家研究会

所在地：〒631-0823 奈良市西大寺国見町 1-5-1-205

☎090-3491-0441（もやい奈良工房）

E-mail：at:second@zeus.eonet.ne.jp（植田清三）

URL：http:

理事会：理事 5 名（代表者・植田秀美）

会員数：正会員 6 名（内訳：設計士）準会員 3 名

年会費：正会員 10,000 円、準会員 5,000 円

設立年月日：平成 4（西暦 1992）年 10 月

●地区の概要及び団体発足の経緯

活動の中心となっている奈良町は元々平城京の外京に位置し、東大寺、興福寺等の寺領から発達し、時代を経て衰栄を繰り返し、江戸から明治にかけて門前町として栄えました。伝統的都市住宅や歴史的な建物は生活や暮らしの中で育まれ町並みを形成したにも拘らず、1980 年代後半のバブル期に多くの伝統的町家が姿を消していきました。歴史や時間を経て育んで来た建物が簡単に壊されていくのを見て、何とか町家を現在や将来に向けて活かしていきたいと思う数人の建築家が集まりました。奈良に残る伝統的な町家を調査・記録し、その変遷と特徴を探ることを活動の基本とし、

「町家」の保存・再生・活用を考えています。合わせて会員各自の町家保存修理、再生工事など日常の設計活動をつうじ学んだことの蓄積から、地域に根ざした都市住宅「現代町家」づくりを目指している建築家の集まりです。

活動の拠点を「ならまち格子の家」におき、月 1 回集りを持ち、フィールドワーク、勉強会を行なっています。また町家の相談等、地域の住民との対話も行なっています。

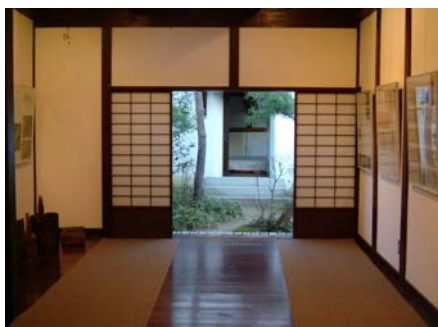


写真1 ならまち格子の家でのパネル展
（毎年1月：1回～21回）



●主な活動内容

- フィールドワークを通して奈良町の町並みや町家の特徴や魅力を探る。
- 町家の保存や再生を行い、伝統技術を生かした現代町家の創出を目指す。
- 歴史的な建物の調査報告、保存修理を行なう。
- それらの成果をパネル展として公開し、町家の改修・再生などの無料相談を行なう。



写真2 フィールドワーク



写真3 歴史的建物の保存修理現場

●これからの活動の課題等

- 多くの空家があるのにもかかわらず活かされていない。
- 解体処分されていく町家が多くある。
- 積極的な活動が必要

組織名称		姫路・町家再生塾			
組織の所在地	〒670-0025 姫路市材木町 9				
	TEL 079-297-0828	FAX 079-297-0828	MAIL staff@himeji-machiya.com		HP www.himeji-machiya.com
組織の構成	設計、工務店、瓦、造園、木材、建具				
					員数 8社
活動内容	<ul style="list-style-type: none">・ 市民啓発事業・ 相談・斡旋事業・ 調査・研究事業・ 会員研修活動				
活動の目標 と試み	<ul style="list-style-type: none">・ 町家建築の保全・改修		<ul style="list-style-type: none">・ 町家に関する市民相談		
	<ul style="list-style-type: none">・ 新しい町家建築の研究・開発				
	<ul style="list-style-type: none">・ 伝統技術の継承				
	<ul style="list-style-type: none">・ 市民への啓発				
対象地域	播磨地域				
対象建物	木造軸組構法による木造建築				対象件数 約 500 軒
建物の特徴	外観	屋根	燻し瓦葺き 本瓦葺きが残る		
		壁	塗り壁 又は 板壁		
		開口部	木製建具 虫籠窓 格子（仕舞屋格子が多い）		
		その他	真壁 又は 大壁の場合は塗り壁		
	内観	二階道路側のオチマ（一段下がった造り）が多い。			
	構造	木造軸組			
	その他				
保全・ 再生方針	<ul style="list-style-type: none">・ 外観を建築当時の姿に戻す・ 内部は、現代生活に適合するよう改善・ 耐震性能に配慮・				
協力する団体					
課 題	<ul style="list-style-type: none">・ 市民の町家再生に対する意識の啓蒙・ 現行法制との整合性・ 伝統構法等技術の継承				
活動資金	契約額に応じた運営協力金、活動支援寄付金、会費				
その他					

■特定非営利活動法人

龍野町家再生活用プロジェクト

所在地：

〒671-1664 兵庫県たつの市揖保川町金剛山 505

☎0791-72-7275

☎090-9099-9613

E-mail : yuji666@jeans.ocn.ne.jp

設立年月日：平成 23（2011）年 4 月

理事長：岸野裕児（きしのゆうじ）

理事会等：理事 8 名

会員数：正会員 16 名

年会費：正会員 10,000 円、賛助会員 2,000 円

設立年月日：平成 23（2011）年 4 月

●地区の概要及

たつの市龍野川西地区の歴史は古く「播磨国風土記」には、すでに龍野の地名のおこりが記載されている。

鶏籠山、的場山、白鷺山と揖保川に囲まれた扇状地で、鶏籠山上に龍野城が築かれたのは文明年間とも明応年間とも言われ、初代城主は赤松村秀であった。

江戸時代になってから城は麓に移り、寛文 12 年に信州飯田から脇坂安政が入封し、明治維新まで 200 年間、脇坂 10 代によりその藩政が続いた。特に城下町の貴重な町割り、大きな政変や第二次世界大戦の空襲も受けることなく、今も大きく変わらず町なかにその遺構を見ることができ、伝統産業の醤油業の醤油蔵とが醸し出す特色ある町並みを作っている。



図 1 龍野町の町並み（本町）

1982 年には伝統的建造物群保存対策調査が行われたり、1985 年には第 8 回全国町並みゼミも開催されているなど、生きた城下町博物館都市として注目されてきました。

平成 7 年からは町並み保存のために、民間の建物を対象に「町並み整備助成事業」を立ち上げ、景観形成地区内の現存する建物の中で特に重要なものを伝統的建造物として選定された上で、修景する場合にその工事費の一部を助成するようになっています。

●団体設立の経緯

伝統的な町並み景観は日本全体の財産です。しかし、全国で町家など古い建物がどんどん壊され、伝統的な町並み景観が急速に失われています。龍野地区でも多くの町家などが失われている状況が続いています。

このような国民全体の財産ともいえる伝統的な町並み景観を守るために、伝建地区への指定に代表される法規による規制や補助金による助成は大きな力を発揮し、この効果は大いに期待されるところであり、現在龍野地区でも指定に向けて、住民の手により進められようとしています。しかし、名実ともに国民の財産といえるようにするためには、単に建物や町並みを形として守り保存していくだけでは十分でなく、その価値が最大限に発揮され多くの人に実感されるようにすることが不可欠です。このためには町家や伝統的な町並みが、新たな価値を生むようにしていく必要があります。また、長い目で見た場合にそれが真の伝統的な町並みや文化の保存・継承につながると思われます。

伝建地区への指定を進めることで法規による規制や補助金による助成による建物の形の保存を進めると、新たな活用等を提案していくことで町家や伝統的な町並みが付加価値を生み出すようにしていくことの両方を、車の両輪のように進めていくことが、理想的な伝統的な町並み保存の手法であると考えます。

特定非営利活動法人龍野町家再生活用プロジェクトは、後者の「新たな活用等を提案していくことで町家や伝統的な町並みが付加価値を生み出すようにする」ために、地域住民であるかを問わず龍野地区の町並みを守りたいとの思いを持つものが、専門的な見地を駆使して進めようとして設立するものです。

このような「伝建地区への指定という住民主体の保存の取り組み」と「外部の専門的な力による取り組み」という、異なった主体のコラボレーションによる伝統的な町並み保存・活用の取り組みは、全国でも例のないものであり、『龍野モデル』として全国に発信できるものと確信しております。

このようにして、龍野川西地区の伝統的な景観を再認識し、保存と活用を考えていこうと平成 23 年 4 月に「特定非営利活動法人龍野町家再生活用プロジェクト」を発足しました。



◎NPO 法人倉敷町家トラスト

団体所在地：〒710-0053 岡山県倉敷市東町 1-21

☎080-5232-6462

E-mail：info@kurashiki-machiya-trust.jp

URL：http://kurashiki-machiya-trust.jp

理事会：理事 13 名（代表理事・中村泰典）毎月 1 回

会員数：会員 339 名、内正会員 66 名

年会費：正会員 5000 円、賛助会員 2000 円

設立：平成 18（2006）年 5 月（10 月 NPO 法人認証）

●地域の景観保全の歴史

昭和 23 年に倉敷都市美協会が設立され、戦後の倉敷の景観保全運動がはじまる。その後、市は昭和 43 年に「倉敷市伝統美観保存条例」を制定し、昭和 44 年「倉敷川畔特別美観地区」を指定。昭和 53 年に「倉敷市伝統的建造物群保存地区保存条例」、さらに昭和 54 年に「重要伝統的建造物群保存地区」（13.5ha その後平成 10 年に 15ha に拡大）として国の選定を受け、平成 2 年には全国にさきがけ、背景保全条例を制定した。平成 12 年に「倉敷市美観地区景観条例」を制定、平成 17 年には景観法に基づく景観条例として改正し、市は積極的な保全対策を講じているが、住民団体の活動は消極的で個人の保全に頼っていた。平成 18 年当団体とほぼ同時期に住民団体（倉敷伝建地区をまもり育てる会）が設立され、景観保全や町家利活用など地域活性化が進んでいる。

●団体の目的

倉敷川畔重要伝統的建造物群保存地区及び周辺の未利用町家の再生・利活用を目的に、町家調査研究・町家生活体験・滞在・定住促進・地域活動などを進めている。

●活動

・「まちにあかりを灯す」がキーワード！

（1）来訪者があかりを灯す（滞在・交流）

町家生活体験・滞在施設と事務所として改修した町家の 2 軒を来訪者や様々な公益事業に取り組む団体や地域の方々が利用し、これらの町家のあかりを灯している。視察やイベント、滞在などで年間 2000 名以上の利用がある。

（2）暮らしのあかりを灯す（定住）

景観に配慮し、まちに愛着を持ち、コミュニティ活動に参加する意思を確認して、物件の紹介をしている。子供たちの声や、暮らしのあかりが灯ることは、周辺住民の願いだ。5 世帯の若い世代があかりを灯した。

（3）商店・事業所があかりを灯す（経済活動）

地域とのつながりやストーリーや思いがないと物件の紹介はしていない。古くから地域に根差した産業の新しい取り組みや、フェアな商取引、ものづくりへのこだわりが大切である。

（4）門灯・看板のあかりを灯す（新しい公共空間）

地域の団体とも協力し合って、門灯の夜間点灯を進めてきた。個々の門灯のあかりは古くて新しい公共のあかりだ。最終電車で帰ってきた住民の帰路のあかりを門灯

で照らそうと声掛けをしている。暮らしのあかりが公道を照らしている。

（5）伝統行事であかりを灯す（文化継承）

（6）イベントであかりを灯す（賑わい・交流）

（7）エコなあかりを灯す（環境配慮）

（8）祈りの明かりを灯す（東日本支援事業）

・くらしき手帖の発行（年一冊）

●保存整備・利活用の状況

町家生活体験・滞在施設として 1 軒、商業施設を 3 軒、住居兼店舗として 2 軒、住居専用として 4 軒、また交流拠点として 2 軒、塀の修景 1 件の計 13 件。



（改修した倉敷町家トラスト事務所：交流拠点として活用）

●履歴

*平成 22 年度都市景観大賞『美しいまちなみ大賞』を「倉敷美観地区」が受賞し、受賞団体に選定。

*第一回地域再生大賞「準大賞」（平成 23 年）

*岡山県夢づくり大賞（平成 23 年度）

*岡山 NPO アワード特別賞（平成 24 年）

*ユネスコ未来遺産登録団体（平成 25 年）

●課題

伝建地区の建造物保全是条例規制と補助金で効果は上がっているが、隣接地区では建築物の様式や素材の統一感はなく、プレハブ建築物やビルなどが建ち並び、空き地は駐車場になり、中高層のマンションも多く建ち、景観は無秩序な様相を呈している。市街地景観の早急な対策が大きな課題である。伝建地区では南海・東南海地震時の減災に向けて、町家の耐震診断等の対策が必要であるが、費用が掛かるため、十分進んでいない。

平成 18 年 8 月、倉敷伝建地区に住民組織「倉敷伝建地区をまもり育てる会」ができ、他の市民団体も活動が活発になってきた。地域活性化は住民グループと、専門性を持った NPO など数が多ければ多いほど多様な活動が息づき、またそれらが有機的に連携し活動をすることで活動の効率と成果は大きく変わる。中心市街地活性化と町家の利活用において官民ともに活動を進めた結果、押し寄せる来訪者に対して、交通諸問題と伝建地区が商業モール化していくことに対して地元住民の不安が高まっている。

■ 萩 つ く る 会

理事会等：世話人 5 名（代表世話人 高村 龍夫）

会員数：正会員 28 名

（内訳：設計事務所 8 人、工務店等 20 人）

年会費：正会員 3,000 円

設立年月日：平成 14（2002）年 8 月

●地区の概要及び団体発足の経緯

毛利 36 万石の城下町であった萩市は、現在でも江戸時代の古地図がそのまま使える町です。現在でも旧城下町一円に古い町並みが広がっています。このため、周辺の農村も含めて、近年まで伝統的な工法に基づいた建築が普通に行われてきました。そのためか、地元の建築士にとって、伝統的な工法を強く意識することもなく、これをまちづくりに繋げていく動きも少なかったように思います。しかしながら、萩においても近年は急激に建物のプレファブ化が進んでいます。

一方で、萩市は古くから歴史的町並みの保存に取り組んできた町ですが、武家屋敷の土塀の保存などが中心であり、一般の建築士が町並み保存に関わることは非常に希でした。

そうした中、平成 13 年末に萩城下町の港町である浜崎地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。翌年から町家の保存修理が行われることになりました。また、平成 23 年には新たに萩往還沿いの宿場町である佐々並市が加わりました。



浜崎の町並み

保存修理にあたっては、その工事は工務店が請け負いますが、設計と工事監理にあたっては必ず設計事務所があたる仕組みになりました。このため、これまで意識せずに行われてきた伝統的な工法に基づく仕事を、文化財の保存修理として取り組む必要ができました。



佐々並市の町並み

このような状況を受けて、平成 14 年に工事に取り組む工務店と設計監理にあたる設計事務所などに所属する建築士の有志を中心に「萩つくる会」が結成されました。萩つくる会では、浜崎の伝統的建造物である町家の修理に実務として取り組む一方で、これを題材にして町家の修理に必要な伝統的な工法に基づく考え方や技術を共有するための研修を重ねています。

●主な活動内容

○伝統的建造物の保存修理の現場研修

会員が担当した保存修理事件の現場において、随時研修会を開催し、会員相互の技術の研鑽と情報の共有を行っています。

最近の研修

- ・国指定重要文化財 大照院本堂・経蔵修理現場
- ・歴史的風致形成建造物 森井家住宅改修現場
- ・浜崎・佐々並市伝建地区 修理・修景現場



大照院経蔵の現場研修の様子

○伝統的建造物に関連する技術研修

保存修理に必要な技術について、いろいろな機会を利用して研修会を開催し、技術向上に努めています。

これまでの研修

- ・伝統工法の耐震基礎研修
- ・土壁工法の実地研修



土壁の技術研修の様子

○萩古民家調査

今年度から旧城下町地域に残る萩古民家の外観調査を始めました。これまで、恵美須町、今魚店町、瓦町など中心部の町の調査を行いました。今後の個別の町家の詳細調査を実施する予定です。



旧城下町に残る古民家

問い合わせ先

〒758-0031 □萩市川島 338（堀設計事務所内）／E-mail hagitsukuru@gmail.com／ブログ：検索 ⇒ 「はぎまちブログ」

■NPO八女町並みデザイン研究会

団体所在地：〒834-0031 八女市本町 315 番地

☎0943-22-5804（中島孝行アトリエ）

E-mail：naka-atelier-97@wind.ocn.ne.jp

URL：http://yame-machiya.net/about_machiya.html

理事会等：理事 9 名（理事長・中島孝行）

会員数：正会員 53 名（内訳：設計士 15、工務店等 38）

年会費：正会員 3,000 円、賛助会員 10,000 円

設立年月日：平成 12（2000）年 4 月

●八女福島の町並みと黒木の町並みの概要

八女福島の町並みは近世初期に整備された福島城の構成を残しつつ、江戸から明治期に物産の集散地として栄えた商家町である。大火を経験して江戸後期に完成した「居蔵」と呼ばれる重厚な妻入り入母屋大壁土蔵の町家をはじめ、多くの町家が連続して残っている。明治中期と昭和初期の道路拡幅に伴う町家の軒切によって正面の一階意匠が大きく変化した。平成 14 年に重伝建地区に選定され、198 棟の建築物を特定している。

黒木の町並みは中世の猫尾城の城下を起源とし、廃城後 2 度にわたり町立てが行われ、近世初期に成立した八女福島に次ぐ物産の集散地として栄えた在郷町である。八女福島と同様「居蔵」の町家が建ち並び、高度な水利技術により町の中に縦横に水路が巡る。昭和 48 年の道路拡幅によって大きく軸組から切られた町家もある。平成 21 年に重伝建地区に選定され、117 棟の建築物を特定している。



八女福島の町並み



黒木の町並み

●NPO法人八女町並みデザイン研究会

会では「八女の歴史的文化遺産等の調査研究及び保存活用並びに伝統構法の継承等に関する事業を行い、文化的景観を活用したまちづくりに寄与する」ことを目的にし、具体的には調査研究及び保存活用、修理・修景工事の相談、技術研修、八女のまちなみ・むらなみ等のデザイン研究に係わる事業を行っている。現在、会員は 53 名、内設計 15 名、工務店等 36 名、事務局 2 名で構成し、八女福島と黒木の伝建地区で活動している。

●主な活動内容

1) 小学生の伝統工法体験学習の開催

未来を担う子ども達に町並みや伝統的建造物の歴史・文化を継承していくことが重要と認識し、学校と連携して地元福島小学校の 6 年生を対象に町家や町並みに関する出前授業及び土壁塗り・ベンガラ柿渋塗り・三和土・伝統工法の体験学習会を実施している。

2) 学習会・研修会

伝統構法の技術習得として修理・修景の現場を利用した学習会や他地区の技術者と交流を目的に見学会や研

修会に参加している。設計担当者会では伝統工法の設計単価（代価）の検討会や痕跡調査・履歴調査の学習会も行っている。

3) 修理・修景事業の設計監理と施工

伝建・街環事業の補助事業として年に 8～10 棟の修理・修景事業を行っている。それを会員が設計監理及び施工にあたり、設計監理の担当は会員の中から希望者を募り、施工の担当も希望を募り 1 物件 3～4 施工者による見積競争で決定している。設計においては現況調査・履歴調査を行い、施主や市担当者と相談し、また大学の専門家の指導も受けながら取り組んでいる。

4) その他

他には、地元住民向けの無料相談や修理・修景後の見学会等も定期的に行い、町家等の伝統的建造物の維持の普及活動及び市からの要請された建造物の履歴調査も行っている。



小学生の土壁塗り体験学習会



三和土の学習会

●課題と展望

痕跡・履歴調査の充実を計り、文化財として、より正確な修理を目指すと共に失われつつある伝統の技も再生し、次代に継承するシステムづくりや職人の育成も急務である。年々修理技術は向上しているが、伝建地区内の修理・修景事業だけでは技術の習得、継承には限界がある。その為には、業としての生計が成り立つように地区以外の伝統家屋の保存再生のための調査・普及活動や伝統構法で地場産材を活用し「八女産住宅」を開発し、普及活動に取り組みたい。

組織名称 NPO 法人文化財匠塾				
組織の所在地	〒812-0023 福岡市博多区奈良屋町1 1－1 3			
	TEL 092-282-4039	FAX 092-282-4039	MAIL tec@shufuku.co.jp	http://www.npotakumi.jp/
組織の構成	NPO 法人 理事長 安原啓示			
	理事・事務局長 小西龍三郎			員数 14 人
活動内容	<ul style="list-style-type: none">・ 平成 17～19 年 平戸市大島村神浦伝統的建造物群保存地区調査・ 福岡市西方沖地震による文化財建物等被害調査・ 平成 19 年 伝統的建造物群保存地区選定申請資料作成業務・ 福岡市 箱嶋邸・白水家 国登録有形文化財選定調査・ 平戸市大島村 スギ花粉避粉地モニター募集・ 平成 20 年 伝統的建造物群保存地区選定 特定物件 「大浦家」修理設計・ 平成 21 年 「塩屋家」(18c 後)「出口家」(18c 後)「柴山家」(明治)「平松家」(19c 中) 修理設計・ 伝統的建造物群保存地区 防災計画策定業務			
活動の目標と試み	<ul style="list-style-type: none">・ 伝統的技術の継承・育成 町屋の修理・保存		<ul style="list-style-type: none">・ 文化財建築物の保存管理ボランティア事業	
	<ul style="list-style-type: none">・ 民活による歴史的建物・工作物・庭園・町並みの保存・活用・管理			
	<ul style="list-style-type: none">・ 会員内外での情報交流・技術の交流（京都町家作事組協議会会員）			
	<ul style="list-style-type: none">・ 平戸市大島村神浦のまちづくり支援			
対象地域	福岡県・長崎県（原則）			
対象建物群	<p>平戸市大島の神浦地区は17世紀に始まった鯨組の基地として栄えた港です。道の両側には、江戸中期～明治・大正・昭和時代の家が軒を並べています</p> 			対象件数 約 230 軒
保全・再生方針	<ul style="list-style-type: none">・ 神浦伝統的建造物群保存地区は江戸期～昭和初期の町屋が稠密に並ぶ日本でも稀有な湊町です。それぞれの時代の特徴を継承するため、基本的に修景を行わず、建築史的調査に基いた修理による町並みの保全を目指します。・ 300 年以上火災に遭遇しない町並みの住民の知恵を生かしながら、災害に強いまちづくりを行います。			
協力する団体	平戸市建築士会 的山大島町並み保存会			
課 題	<ul style="list-style-type: none">・ 修理事業の年数が浅いため、メール等による技術的な相談に乗ってくれる制度がほしい・ 耐震は地震波による実践的な解析を主にデータの収集を行っています。共同する組織を希望します			
活動資金	伝建委託費・会費等 約 2,800 千円			
その他				

組織名称		住まいば考えよっ隊		
組織の所在地	〒 830-0047 福岡県久留米市津福本町 1804-5			
	TEL 050-1110-5765	FAX 0942-33-1837	MAIL zat02473@yahoo.co.jp	HP http://blog.kurumenokenchikusi.com/
組織の構成	設計、測量、工務店、大工			
				員数 9社
活動内容	<ul style="list-style-type: none">・ 調査、提案・ 仕口実験・・			
活動の目標 と試み	<ul style="list-style-type: none">・ 技の再生、習得及び継承		技の再生のきっかけとして、金物を使わない仕口の適合証明取得	
	<ul style="list-style-type: none">・ 民家の保全・再生を普及する		保全すべき民家の掘り起こし調査の実施	
	<ul style="list-style-type: none">・			
	<ul style="list-style-type: none">・			
対象地域	久留米市内（原則）			
対象建物	伝統木造軸組構法による戦前木造建築			対象件数 約 100 軒
建物の特徴	外観	屋根	主屋根：茅葺き（山茅）、棟は竹簀巻（タケスマキ） 形状としては寄棟形式で、直屋（スゴヤ）又は、鉤屋（カギヤ） 下屋：粘土の焼き瓦（城島瓦）	
		壁	中塗り、腰板	
		開口部	格子戸、大戸、無双窓	
		その他	ベンガラ塗り、軒裏露し(主屋根)、板野地(下屋)	
	内観	天井は竿縁、客間である座敷は赤色、若しくは黄色中塗り壁、その他は土色の中塗り壁、畳は萱の床に七島（俗に琉球蘭）の畳表、木部は全てベンガラ塗りの上に松煙とエゴマ油で仕上		
	構造	通し 4. 5 寸柱、木舞は割竹、足固めは存在せず地覆石まで土壁、重臍による桁組の上に叉首組		
	その他	客間である座敷の裏側に納戸と呼ばれる家長夫婦の寝室、畳敷の室の総称は御前（ゴゼン）		
保全・再生方針	<ul style="list-style-type: none">・ 基本的に建ったときの状態に戻す。・ 構造、屋根、外壁などの建物の保全性を担保する部分の改修を優先する。・ 現場を技の再生、保全・再生の普及の場ととらえる。			
協力する団体	建築士会			
課 題	<ul style="list-style-type: none">・ 現行法制との整合・ 適切な改修技術の普及・ 適材の流通・ 人材の育成・ 持ち主の理解不足（費用や後継者不足も含む）			
活動資金	随時、参加者が負担			
その他				

■NPO 臼杵伝統建築研究会

所在地：〒875-0023 臼杵市大字江無田 1479-3

☎0972-62-3409（(株) 足立林業内）

E-mail：a69@sky.plala.or.jp

URL：http:

理事会：理事 8 名、監事 2 名（理事長・菊田 徹）

会員数：正会員 47 名（内訳：職人 25 名、建築士 16 名、古民家が好きな人 6 名）

年会費：正会員 5,000 円、準会員 3,000 円

設立年月日：平成 10（1998）年 1 月

●地区の概要及び団体発足の経緯

臼杵はキリシタン大名として知られる大友宗麟が本拠地を府内（現在の太田市）から移したことに始まる城下町で、市内の広範な区域に町屋、武家住宅、寺社など多様な伝統建築が残されている。こうした臼杵では早くから町並み保存運動が市民主導で進められてきた。さらに、臼杵の伝統的な技と知恵を改めて探りながら、これからの現場に実践しよう、自由で弾力性に富む団体として、職人・建築士・古民家が好きな人など様々な市民が参加して平成 10 年に臼杵伝統建築研究会を立ち上げた。

平成 17 年には法人格を取得し、こども大工道場、研修事業、古材情報 Bank 事業、NPO による文化財建造物活用モデル事業など色々な事業をしてきた。



図 1 土蔵骨組み解体実習勉強会の模様

●主な活動内容

○おおい子大工道場（平成 16 年度）

日本の伝統文化である木造建築技術「匠の技」、の素晴らしさを学んでもらおうと県が本年度初めて企画し、道場には県内各地の 55 人が入門（臼杵地区中学生 8 名）。12 月まで、臼杵地区では木造建築について棟梁から学び、小屋を建て文化祭で披露発表した。

○第 5 回全国町家再生交流会の開催（平成 25 年度）

平成 25 年 11 月 16 日 17 日の二日間第 5 回全国町家再生交流集會を当市において開催した。本會を中心として臼杵市、建築士會臼杵支部、宅建協會臼杵支部、臼杵デザイン會議等の関連諸団体により実行委員會を立ち上げ受け入れ体制を整えた。全国町並みゼミ開催から 10 数年たち、運動の継承という意味からも全国大會を開催することの意義を再認識する事業となった。



図 2 交流会での分科会見学会の模様

○NPO による文化財建造物活用モデル事業（平成 18 年度文化庁）

歴史と文化の町・臼杵の伝統的な家屋を維持していくための技術の継承と、地域独特の手仕事の復活伝承をなし、市民自らが文化財建造物を内と外から維持していくための方法の確立を目的に、日曜大工よりもワンランク上の伝統技法（墨付け、鉋やノミの使い方、手入れの仕方、柿渋弁柄塗装他）、古民家の維持補修法を実技を中心に座学を交えながら講座を開催した。

○龍原寺三重の塔 復元修理 調査

臼杵のシンボルである三重塔は高橋団内が天保 12 年（1841 年）に設計・指導し安政 5 年（1858 年）に竣工している。

昭和 43 年に一部分半解体修理をしているが、近年、痛みが目立つようになってきた。そこで、市教育委員会及び龍原寺の協力の下、2006 年専門家を招き『復元修理勉強会』を行った。

初めに現況調査を実施。基礎、初層東部分柱等シロアリ被害が特にひどい部材への薬剤注入、土壌地盤改良を行う必要性が指摘された。

本会としては、出来るだけ早く応急修理を実施したいと考えているが、多額の費用の調達をはじめ、多くの課題があり、研究を進めている。



図 3 龍原寺三重塔

●これからの活動の課題等

臼杵らしさを一番大切にして、臼杵地域の、伝統文化の保存・伝承及び伝統的建造物の意匠・技術・技の調査研究に関する事業を行い、魅力あるまちづくりに寄与したい。

長崎県平戸市大島村からの報告

個人会員 米村 伍則

長崎県平戸市大島村神浦 52 ☎0950-55-2487

E-mail : i-yonemura@mx51.tiki.ne.jp

●地区の概要及び活動の経過



神浦伝統的建造物群保存地区(H20 年度国選定)

平戸市大島村は古くから渡唐船等の寄港地として知られ、地頭職大島氏の 400 余年の活躍と江戸前期の捕鯨業が歴史的特色である。島の南東部に歴史的町並みの神浦地区がある。重伝建選定の評価は、「捕鯨業の創業と廃業を経て近世的な港町へと発展した過程を知ることができる・・・」である。特徴は①江戸前期の捕鯨業 ②中心部に江戸期の建物が多く残っている③江戸期から昭和前期まで各時代の建物が残っている ④深く湾入した神浦港・(①~④調査報告書より)である。

H16,2 有志による町並み活性化の「あづち大島たからもの会」発足。保存活動の母体となる(9 名)

●主な活動内容

H17.18 伝建保存学術調査協力

H20.5 NPO 法人文化財匠塾平戸支部発足

H20.6 神浦伝統的建造物群保存地区・国選定
伝建保存修理事業始まる

H21.1 作事組全国協議会発足・個人加入

H21,5 第 3 回九州町並みゼミ神浦大会開催

H21.6 神浦町並み保存会発足

H23.6 あづち大島重伝建作事組発足(25 名)

保存地区の概要・特質、保存の方針、建造物等の保存整備、管理・防災施設整備等が「保存計画」として策定され、保存事業の推進体制として町並み保存会や技術者集団等の必要性が明記されている。これらの関係組織・団体を中心とした保存



(保存修理の状況・古材の尊重)

修理基盤の確立が官民協働と合わせて肝要と努力しているが、まだ確立とはいえない状況である。

空き家の課題については、スギ花粉が少ないという大島の特性を活かし、平成 19 年度から毎年「スギ花粉避粉地体験セラピーツアー」を実施し、個人的避粉滞在による町家活用を考えている。全国的にスギ花粉避粉地として知名度を上げ、地域の活性化に寄与できればと努力している。



●これからの活動の課題等

官民協働、連携協力による保存修理基盤の確立

●感謝 10 年ほどの活動にすぎませんが、作全協をはじめ活動当初から指導助言をいただきました八女福島町町並み関係者、NPO 法人文化財匠塾などの皆様に感謝申し上げます。

8.参加者名簿

No.	氏名	所属	分科会			エクスカー		懇親会	お座敷 談議	宿泊予約	
			I	II	III	11日	12日			10日	11日
1	荒木 正亘	(一社)京町家作事組			○		○	○			清輝楼
2	梶山 秀一郎		○				○	○	○		清輝楼
3	木下 龍一				○		○	○	○		清輝楼
4	京極 迪宏				○		○	○	○		清輝楼
5	小幡 真次				○			○			清輝楼
6	末川 協			○			○	○	○		清輝楼
7	大下 尚平			○			○	○	○		清輝楼
8	辻 勇治			○			○	○	○		清輝楼
9	内田 康博				○		○	○	○		銀水
10	井澤 弘隆			○		○	○	○	○		銀水
11	荻野 哲也				○		○	○			銀水
12	南 麻衣子				○		○	○	○		銀水
13	宗田 好史				○	○	○	○	○		茶六本館
14	志賀 咲穂	姫路・町家再生塾	○			○	○	○			清輝楼
15	志賀 泰子		/	/	/		○			※EXⅡのみ出席	
16	志賀 有希子		/	/	/		○			※EXⅡのみ出席	
17	廣瀬 拓也				○	○	○	○			清輝楼
18	山田 克幸				○	○	○	○			清輝楼
19	坂之上 佳菜		○			○	○	○			清輝楼
20	上川 慎也			○		○	○	○			清輝楼
21	木村 明稔		○			○	○	○			清輝楼
22	園部 隼平			○		○	○	○			清輝楼
23	中村 友香		○			○	○	○			清輝楼
24	加藤 孝之		/	/	/					※報告会のみ出席	
25	景山 誠		/	/	/					※報告会のみ出席	
26	北島 力	NPO法人 八女町並みデザイン研究会		○		○	○	○	○	茶六本館	茶六本館
27	中島 孝行		○			○	○	○	○	茶六本館	茶六本館
28	宮奥 淳司	宇陀まちなみ研究会		○		○	○	○	○		清輝楼
29	上田 東	NPO法人 ちりめん街道未来塾	○			○	○	○			
30	下村 哲人			○		○	○	○			
31	武藤 清秀	有限責任事業組合 金澤町家		○		○	○	○	○		清輝楼
32	黒田 睦子	(公社)奈良まちづくりセンター			○			○			茶六本館
33	齋藤 行雄	NPO法人 臼杵伝統建築研究会	○			○	○	○	○		銀水
34	荻野 晴幸			○		○	○	○	○		銀水
35	西田 昌弘	NPO法人 倉敷町家トラスト		○			○	○			茶六本館
36	西田 深雪			○			○	○			茶六本館
37	富川 芳人	萩つくる会		○				○			銀水
38	野本 吉憲	NPO法人 川越蔵の会	○			○	○	○			清輝楼
39	荒牧 澄多			○		○	○	○			清輝楼
40	白土 眞二				○		○	○			清輝楼
41	関岡 千秋				○	○	○	○			清輝楼
42	山本 玲子				○	○	○	○			清輝楼
43	奥田 佳子	金澤職人大学校		○		○	○	○			茶六本館

参加者名簿

No.	氏名	所属	分科会			エクスカー		懇親会	お座敷 談議	宿泊予約	
			I	II	III	11日	12日			10日	11日
44	多和田 篤嗣	豊田市教育委員会			○	○		○	○		茶六本館
45	堀 由紀子	与謝野町教育委員会		○		○	○				
46	吉田 比呂子	京都府建築士会			○	○					
47	矢谷 明也			○		○		○			
48	中川 市三			○		○					
49	梅本 悦二		○					○			
50	安田 浩一			○				○			
51	梶原 純子	亀屋スタイル			○	○	○	○			清輝楼
52	田崎 達夫	個人		○		○	○	○			
53	小林 清	いんしゅう鹿野まちづくり協議会	○					○			茶六本館
54	波多野 賢	NPO法人 京都くらし方研究会	○					○			
55	竹内 良和		○					○			
56	星野 和彦	宮津を元気にする会		○		○	○	○			
57	谷垣 由里	篠山 ROOT		○							
58	小西 正樹	みやづ環の地域づくり推進ネットワーク		○		○		○			
59	中村 真由子				○	○		○			
60	岸田 秀章		○			○		○			
61	大村 昭司	NPO法人 天橋作事組		○				○			
62	大村 利和						○	○			
63	和田 直之						○	○			
64	岩田 信一				○		○	○	○		銀水
65	大滝 雄介				○		○	○			
66	井上 真哉			○				○			
67	羽田野 まどか				○		○				
68	杉本 辰生			○		○	○	○			
69	三宅 秀明		○				○	○	○		
70	森口 英一			○			○	○	○		
71	河森 一浩			○		○	○	○	○		
72	東 高志		○			○	○	○	○		
73	大村 周平			○			○	○			
74	黄前 佳之			○							
75	林 拓也				○		○				
76	森谷 ひかる				○						
77	徳田 誠一郎										
78	茶谷 哲										
79	福井 俊明							○			
80	瀬野 理砂		○					○			
81	石田 直之		○			○	○	○	○		

9. 総会議案

〔第1号議案〕

2013・2014年度活動報告

1) 各地の取り組みの情報交換

◆ ホームページの更新

各地の活動状況、イベントなどの広報をよびかけた

2) 各地の活動の相互支援

◆2103年3月25日(月):NPO 法人 八女町並みデザイン研究会の北島氏が(一社)京町家作事組を訪問し、八女での活動についての記録映画「まちや紳士録」の製作及び上映の予定を報告するとともに、相互の活動状況や今後の動きについて報告し、交流を深めた。

◆2014年6月20日(金):総会を予定している宮津の天橋作事組を(一社)京町家作事組のメンバー3名が訪問し、総会及び交流会の中身について議論し、合わせて、それぞれの活動状況や今後の方針について報告し、交流を深めた。

◆2014年9月2日(火):天橋作事組の会長大村氏が(一社)京町家作事組を訪問し、総会の中身を再度議論するとともに、京都での活動状況を見学した。

3) 各地の実践による町家、民家等の保全、再生の普及

◆各地域で実践を進めている。(別紙活動報告参照)

4) 各地の伝統構法の信頼性を取り戻し、それを担保できる枠組みの模索

◆ 伝統木造町家の性能標準表の作成

作成済:京町家作事組、八女まちなみデザイン、萩つくる会 作成中:姫路町家再生塾

作成済みの団体から未作成の団体へ応援出張するなど、推進策を検討する。

5) 相互に学ぶ技術的な研修

◆2013年11月16日(土)、17日(日):全国町家再生交流会 in 臼杵に参加し、第3分科会「伝統構法・職工のこれから」、見学会等で相互に研鑽に努めた。

6) 法や制度に対する政策提言

◆2013年11月16日(土):全国町家再生交流会 in 臼杵の第2分科会「町家をめぐる法制度の現状と課題」に参加し、議論を深めた。

7) その他、本会の目的を達成するための事業

◆2013年9月15日(日):記録映画「まちや紳士録」(八女福島)の上映会を開催。以降全国で上映中。

8) 会員代表者会議の開催

◆2013年11月16日(土):大分県臼杵市にて全国町家再生交流会の開催に合わせ、会員代表者会議を開催し、各地域での活動状況報告など、情報交換を行った。

〔第2号議案〕

2013・2014年度収支報告書

自:2013年 4月 1日

至:2014年 10月16日

作事組全国協議会

収入の部			支出の部	
前期より	繰越	137,002		
1 会費			1 一般経費	
年会費 (団体)	310,000		広報費	11,580
年会金 (個人)	24,000		定期総会諸費用	100,000
			諸会費	0
			郵送料	810
			支払手数料	802
			雑費	2,160
	小 計	334,000	小 計	115,352
2 その他			2 管理費	0
預金利息	57		3 その他	0
	小 計	57		
今期収入合計	334,057		今期支出合計	115,352
			次期繰越金	355,707
合 計	471,059		合 計	471,059

繰越現預金等残高 現金

0

京都銀行 本店

355,707

2015・2016年度活動方針(案)

はじめに

引き続き日本は災害列島の様相を呈している。頻発する災害のなかには、気象記録史上最大の雨量や突風など、不可抗のものもあると思うが、人災としか言えないものも少なくない。調整池として機能してきた水田に家建てる、10数年ごとに内水氾濫を起こすところに、浸水の備えのない建物を建てる、耕作放棄された沢の棚田を宅地に変えるなどである。また堤防、排水機場、砂防堰堤や治水ダムなどへの意識的依存が被害を大きくしているという面でも人災といえる。そのような、建ててはいけな、乃至は建てるにはよほどの注意を要するところに住宅が建つ一方で、町なかには200年住宅ともいべき、住み続けられる町家が空き家になっている。人の営みがあり災害の起きやすいところには必ず伝承があるはずである。仮に伝承が途絶えていたとしても、そこに建つ民家には被害を少なくする知恵が盛り込まれている。町家(民家)を守ろうとする私たちには、伝統の発掘とともに伝承を再生する役割が求められる。

私たちは引き続き、町家に盛り込まれた防災の工夫、住み続けられる知恵、すなわち伝統や伝承を明らかにして、町家の有用性を訴え利活用に結びつける。そして暮らし続けるために地域の伝統に立脚した業が再生され、また人が集まるという循環を生み出すための学びあいの場、情報交換の場を提供していきます。

活動目標

1)各地の取り組みの情報交換

- ・ ホームページに各地域の活動やイベントを紹介
- ・ ホームページに成功事例や困難な課題を抱えた事例を掲載

2)各地の活動の相互支援

- ・ 寄せられた支援要請に対応

3)各地の実践による町家、民家等の保全・再生の普及

- ・ 各地の活動に期する

4)各地の伝統構法の信頼性を取り戻し、それを担保できる枠組みの模索

- ・ 枠組みのありようについての検討を開始

5)相互に学ぶ技術的な研修

- ・ 総会や「全国町家再生交流会」などにおける見学会や意見交換を通して行う

6)法や制度に対する政策提言

- ・ 独自の活動及び他会との協働により推進

7)その他本会の目的を達成するための事業

- ・ ことと時に当たり実施

〔第4号議案〕

2015・2016年度収支予算書(案)

自:2015年 4月 1日

至:2017年 3月31日

作事組全国協議会

収入の部			支出の部	
前期	繰越金	355,707		
1 会費			1 一般経費	
	年会費 (団体)	300,000	広報費	11,580
	年会費 (個人)	24,000	総会費	100,000
			諸会費	50,000
			郵送料	15,000
	小 計	324,000	支払手数料	1,500
			雑費	10,000
2 その他			小 計	188,080
	預金利息	60		
			2 管理費	0
	小 計	60		
			3 その他	0
今期収入合計		324,060	今期支出合計	188,080
			次期繰越金	491,687
合 計		679,767	合 計	679,767

2015・2016年度 役員選任(案)

- 会 長 梶山 秀一郎（一般社団法人 京町家作事組 理事長）

- 副会長 中島 孝行（NPO法人 八女町並みデザイン研究会 理事長）

- 副会長 武藤 清秀 （有限責任事業組合 金澤町家）

- 会 計 井澤 弘隆 （一般社団法人 京町家作事組 理事）

- 監 事 松井 郁夫 （一般社団法人 ワークショップ「き」組 代表理事）

※ 役員の任期は2年(2015年 4月 1日～2017年 3月31日)

※事務所：一般社団法人 京町家作事組 事務局内
（事務局担当・井澤弘隆・一般社団法人京町家作事組 事務局）

10. 作事組全国協議会会則

作 事 組 全 国 協 議 会 会 則

(名 称)

第1条 本会は作事組全国協議会と称する。

(事務局)

第2条 本会の事務局は、一般社団法人 京町家作事組の事務局内に置く。

(目 的)

第3条 各地域に固有の伝統構法による建造物の保全、再生、継承を行うため、その課題となる法や基準、資材流通や市場、技術の再生・修得・継承等の課題に、全国で連帯して取り組むことを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 各地の取り組みの情報交換
- (2) 各地の活動の相互の支援
- (3) 各地の実践による町家、民家等の保全、再生の普及
- (4) 各地の伝統構法の信頼性を取り戻し、それを担保できる枠組みの模索
- (5) 相互に学ぶ技術的な研修
- (6) 法や制度に対する政策提言
- (7) その他、本会の目的を達成するための事業

(会 員)

第5条 本会の会員は、第3条の目的に賛同する団体及び個人とする。

2. 本会への入会は、入会申込書を会長に提出し、役員会にて承認するものとする。退会についても同様とする。

(役 員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1 名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 理事 15 以内
- (4) 会計 1 名
- (5) 監事 1 名

2. 役員は、総会において選出する。

(役員の仕事)

第7条 役員の仕事は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。
- (3) 理事は、役員会を構成し、この会則及び総会の議決に基づき、本会の業務を執行する。

(4) 会計は、本会の経理業務を統括する。

(5) 監事は、本会の経理を監査する。

(役員任期)

第8条 役員の任期は、2年とする。ただし、補欠の役員の任期は、その残任期間とする。

2. 役員は、再任されることができる。

(機 関)

第9条 本会には、次の機関を置く。

(1) 総会

(2) 会員代表者会議

(3) 役員会

(総 会)

第10条 総会は、会員で構成し、2年に1回会長が招集する。

2. 総会は、事業報告、決算報告、事業計画、予算、役員の選出、会則の改正等の重要事項を決定する。

3. 総会の会員の表決権は、団体会員にあっては2票、個人会員にあっては1票とする。

4. 総会は、会員の半数以上の出席（委任状を含む。）で成立する。

5. 総会の議事は、出席者の過半数で決するものとし、可否同数のときは議長の決するところによる。

(会員代表者会議)

第11条 会員代表者会議は、会員の代表者で構成し、必要に応じて会長が招集する。

2. 会員代表者会議は、総会を開催しない年度の決算、予算の決定及び本会の運営並びに事業等に重要な事項を決定し、組織の拡充と事業等の推進を図る。

(役員会)

第12条 役員会は、監事を除く役員で構成し、必要に応じて会長が招集する。

2. 役員会は、本会の業務執行上必要な事項を決定して、効果的な業務の執行を図る。

(会 計)

第13条 本会の財源は、会費及びその他の収入をもって充てる。

2. 本会の年会費は、総会及び会員代表者会議において別に定める額とする。ただし、設立当初においては団体会員10,000円、個人会員3,000円とする。

3. 本会の会計年度は、毎年 4月 1日から翌年 3月31日までとする。

(補 則)

第14条 この会則に定めるもののほか必要な事項は、会長が会員代表者会議に諮って定める。

附 則

この会則は、2009年 2月21日から施行する。

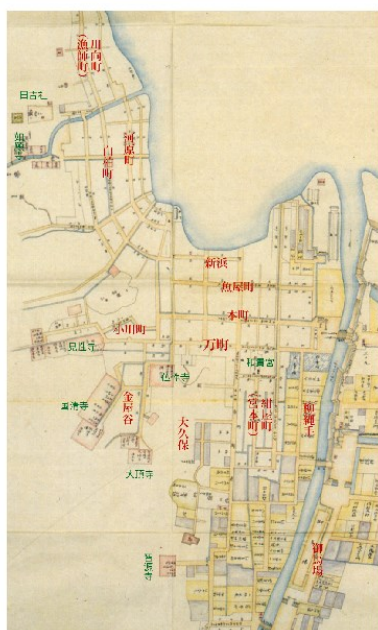
11. 会場案内図

■会場案内図

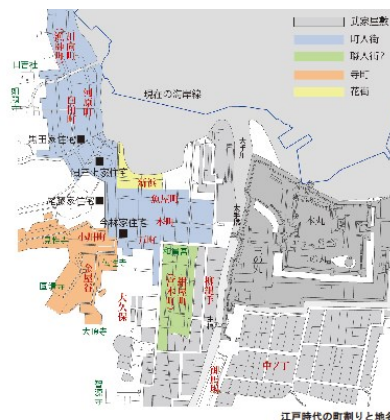


■宮津町家の概要

第4回工作組全国協議会 宮津大会
シンポジウム「宮津町家の概要」◀発表資料▶



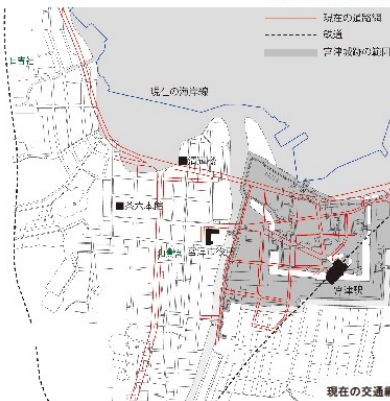
弘化2年(1845)宮津藩領城郭之図と町割り



江戸時代の町割りと地名



江戸時代の町割りと分科金



現在の交通網